

アート＆テクノロジー 知術研究プロジェクト
「知デリ」in 大阪＆東京

大阪編 / CSCD presents 知デリ in 萬福寺

「ゆらぎ」ながら、生きる

2013年3月7日(木) 19:30-21:30

萬福寺(大阪・南堀江)

岩下 徹 (舞踊家〈即興ダンス / 山海塾舞踏手〉) 四方哲也 (研究者・大阪大学大学院情報科学研究科教授)

東京編 / CSCD presents 知デリ in Apple Store, Ginza

素材と交感する、二人

2013年3月31日(日) 17:00-19:00

Apple Store, Ginza (東京・銀座)

名和晃平 (彫刻家・京都造形芸術大学准教授) 能木雅也 (研究者・大阪大学産業科学研究所准教授)

「知デリ」とは、科学技術・哲学・アートなど多分野の専門家で構成する大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)が、社会と連携しながら「知術」を人々に還元(デリバリー)するトークプログラムです。ここでは、さまざまな領域で活躍される方々と対話の機会を設け、各々の専門分野における「知識」や「技術」の横断・交換を通して、新しい発想の創出やアイデアの実現に繋げることを目指しています。2007年から始動した本プロジェクトは、研究者とアーティスト、文系と理系など、異なる専門領域の第一線で活躍するゲストを迎え、対話プログラムを実施しています。また、2008年からは学生も参画し、企画運営を実践しています。

主 催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD) 共催：Apple Store 銀座 (東京)・萬福寺 (大阪)
企画制作：CSCD ワーキングメンバー (小林博司・神里達博・木ノ下智恵子・久保田テツ・辻田俊哉・山内保典)
知デリ学生スタッフ (米田千佐子・佐々木啓・鈴木寛和・鳥居大嗣・中谷和生・新倉奈々子・濱崎杏子・松延徹人)
製作協力：NPO recip | 地域文化に関する情報とプロジェクト |

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16
Tel＝06-6850-6632 (平日 9:00-17:00)
Email＝contact_chideli@cscd.osaka-u.ac.jp
URL＝http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/



CSCD presents 知デリ in 萬福寺

「ゆらぎ」ながら、生きる

私たちは「ゆらぎ」ながら生きています。そして、「ゆらぎ」は私たちの中だけでなく、広く社会の中にも存在しています。そう、この世界には、「ゆらぎ」が満ちています。では「ゆらぎ」とは、一体何なのでしょう？今回はゲストとして、生命の進化の過程に潜む「ゆらぎ」を研究する四方哲也氏と、「ゆらぐ」身体に対して、最もシンプルな即興ダンスを追求する舞踊家の岩下徹氏をお招きします。お二人の対談を通して、サイエンスとアートという異なる立場から、「ゆらぎ」の意味と可能性を探ります。

日時

2013年3月7日(木) 19:30-21:30 (開場・受付は30分前から)

ゲスト

岩下 徹 (舞踊家〈即興ダンス / 山海塾舞踏手〉) 四方哲也 (研究者・大阪大学大学院情報科学研究科教授)

場所

萬福寺・大阪南堀江 (大阪市西区南堀江1-14-23)

入場無料／定員 50 名程度 (当日先着順)

ゲストプロフィール

岩下徹 (いわしたととおる)

1957年生まれ。ソロ活動ではく交感>(コミュニケーション)としての即興ダンスの可能性を追求。1982年筑波大学第1学群人文学類哲学専攻中退。1982～1985年石井満隆ダンスワークショップで即興を学び、1983年ソロ活動開始。かつて精神的危機から自分のからだを再確認することで立ち直ったという体験を原点とするソロダンスは、等身大のからだひとつで立つことから始まり、場との交感から生まれる即興として踊られる。1986年より山海塾の全作品に参加。1989年より滋賀県/湖南病院(精神科)で「ダンスセラピーの試み」を継続実施中。日本ダンスセラピー協会顧問。京都造形芸術大学、桜美林大学、神戸大学、滋賀県立総合保健専門学校非常勤講師。http://iwashtatoru.com/

四方哲也 (よもてつや)

1963年生まれ。1989年 Beckman Research Institute City of Hope研究員、1991年大阪大学大学院醸造工学専攻修士・工学博士、1991年大阪大学助手、2002年助教授を経て、2006年より現職。大阪大学大学院生命機能研究科教授(兼任)、2009年より科学技術振興機構 ERATO動的微小反応場プロジェクトの総括も務める。専門分野は生物物理学、進化生物学、ゲノム生物学。主に、生物が進化したたり、共生関係を築くプロセスの解明や人工細胞の構築に取り組んでいる。研究室 HP:http://www.symbio.ist.osaka-u.ac.jp/index.html

CSCD presents 知デリ in Apple Store, Ginza

素材と交感する、二人

材料としての「木」にとことん寄り添い、「透明な21世紀の紙」や「紙の太陽電池」といった新素材を開発し、軽くてしなやかな電子デバイスの試作を通じて、セルロースの新たなイノベーションで注目を集める研究者・能木雅也氏。そして、ビーズや発泡ポリウレタンなど、身近な素材の意味を縦横無尽に読み替えながら、「Cell」という概念をベースに彫刻や空間を作り出す新進気鋭の彫刻家・名和晃平氏。今回は、技術と表現の革新に挑み続けるお二人のゲストをお招きし【素材から呼び起こされる創造性】をテーマに、テクノロジーとアートの二つの角度から、対話を深めます。

日時

2013年3月31日(日) 17:00-19:00 (開場・受付は30分前から)

ゲスト

名和晃平 (彫刻家・京都造形芸術大学准教授) 能木雅也 (研究者・大阪大学産業科学研究所准教授)

場所

Apple Store, Ginza 3F シアター (東京都中央区銀座3-5-12 サエグサビル本館)

入場無料／定員 80 名程度 (当日先着順)

ゲストプロフィール

名和晃平 (なわこうへい)

1975年生まれ。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期) 課程彫刻専攻修了。1998年英国王立美術院交換留学。感覚や思考のメタファーとしてのマテリアルを「PixCell」という独自の概念を機軸に多様な表現を展開。近年の個展に「L.B.S.」(メゾンエルメス、東京)、「名和晃平—シンセシス」(東京都現代美術館)。第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ2010最優秀賞、韓国・チョナンに屋外彫刻“Manifold”を設置予定など国内外で活躍。2009年より京都に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げ、作品制作から、携帯電話のデザインプロジェクトや、ミュージシャンのPVやステージセット等に携わり活動は多岐にわたる。http://www.kohei-nawa.net

能木雅也 (のぎまさや)

1973年生まれ。2002年名古屋大学生命農学研究科博士(農学)取得。産業技術総合研究所、京都大学国際融合創造センター、日本学術振興会特別研究員PD(京都大学生存圏研究所)を経て現職。ナノマテリアル、セルロース材料、プリントド・エレクトロニクスをキーワードに研究。樹木をはじめとする植物細胞壁であるセルロースナノファイバー(セルロースマイクロフィブリル)から「透明な21世紀の紙」や「紙の太陽電池」といった新素材を開発。さらに、それらの材料をエレクトロニクス産業分野などに結びつけるため、ナノファイバー材料の特性向上技術やプロセス技術を開発する。平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞など研究業績多数。http://www.nogimasaya.com